

箕面市立止々呂美小学校 森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

プログラム名： 里山体験学習				
(1) プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人とのつながりを楽しむ。 ・ 間伐体験や道普請を通して、地域の自然に親しみをもつ。 ・ 体験学習を通して、里山について理解を深め、里山保全に取り組もうとする態度を育てる ・ 学んだことを通して、とどろみの環境について考え、自ら課題意識を持ち、解決に取り組もうとする。 			
(2) プログラムの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山についての講義 ・ 散策道の道普請 ・ 散策道付近の間伐 ・ これまでの学習や体験学習を通して、とどろみの環境について学んだことや考えたことを、他学年などに発信していく。 			
(3) プログラムの展開				
<p>活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・ about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・ for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動） 				
時間数	プログラムタイトル			
	<table border="1"> <tr> <td>活動内容</td> <td>指導・支援の方法、ポイント等（教材等）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">in、about、for の視点で活動内容を区分</td> </tr> </table>	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）	in、about、for の視点で活動内容を区分
活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）			
in、about、for の視点で活動内容を区分				
1	<p>里山について知る</p> <p>なぜ間伐をするのかを、とどろみの森クラブの方からお話を聞く。</p> <p>とどろみの森クラブの方から話してもらう。</p> 			
	about 里山の話を知る（情報収集）			
3	<p>間伐体験</p> <p>散策道付近の間伐をする。</p> <p>とどろみの森クラブの方に道具の扱い方、間伐の方法を指導してもらう とどろみの森クラブの方の指導のもと、木を選定し、伐採していく。</p>  			
	in 伐採体験			
4	<p>道普請</p> <p>道普請をする。</p> <p>森クラブの方から道具の扱い方を指導してもらい、作業する。</p>   			
	in 道普請			

4	とどろみのすてきを伝えよう	
	<p>学んだことを他学年に発信する。</p> 	<p>これまでの体験活動を通して、とどろみの環境の良さを改めて考え、自分たちにできることを実践したり（ビオトープ再建）、発信したり（他学年に発信）していく。</p> 
for 実践 発表		

(4) プログラムでの連携内容
(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

①とどろみの森クラブ
②里山についての講義、体験活動の準備と実施、実施に伴うスタッフ活動等
③事前の打ち合わせ2回（日程と内容決め。直前の打合せ）
とどろみの森クラブ小屋で集合し、里山についての講義をしてもらう。
里山での活動実施（道具や活動のための準備・道具の使い方のレクチャー、グループの見守り等）

学習指導要領との関連（例 小学校）	
1年	生活：身近な自然の観察、利用
2年	生活：生き物を育てる、成長
3年	社会：飲料水、地域の生活 理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）
4年	社会：都道府県の様子・生活 理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全 理科：植物の発芽、成長、結実
6年	社会：歴史上の事象、文化財 理科：生物と環境
総合的な学習	横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表
特別学習	遠足・鑑賞、集団活動・生活

森林環境教育の視点	
1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感性的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目	
教科・項目、視点	学習内容
総合的な学習 5、管理・維持	里山保全のために、間伐や道普請をする。 林道を管理・整備することで、里山が利用しやすくなることを知る。
総合的な学習 3、多面的な機能	里山の機能について聞く。 間伐の意味を知り、伐採体験の向かおうとする気持ちを高める。
総合的な学習 2、自然的特性	動物（鹿や鳥）との関わりを知り、鹿害を減らし、大鷹が住む森にしようとする取り組みについての理解を深める。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
ESDの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つなぐを尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（ESD）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	ESDの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	○里山についての講義 5年生の社会でも林業の単元があり、山の機能や、間伐の意義は学習済みである。 6年生でさらに話を聞くことで、知識が広がり、体験を通してさらに理解を深めることができる。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	○他学年への発信 とどろみの環境を考えるというテーマで、自分たちがしたいこと、やりたいことを出し合い、「他学年などにとどろみの良いところを発信したい。」という思いが出てきた。伝える内容や方法を考え、発表内容でグループ分けした。国語の授業で学んだ発表方法などを用いてプレゼンテーションソフト等を使って発表することで、伝える力を育む。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	○体験学習 体験学習を通して、教室で学習したことをさらに深められ、興味関心を高められる。 ○発信 学んだこと、考えたことを形にしていこうとする力を育てる。			
(7) 実施後、参加者の変化				
<ul style="list-style-type: none"> ・道普請はしんどかった。こんな作業をしていることを初めて知った。 ・間伐をすることで、森が育つことが分かった。 ・道普請をすることで、歩く道がきれいになって歩きやすくなった。 ・鹿に食べられないようにネットをはっていることがわかった。 ・止々呂美には自然がたくさんあって、よいところだと思った。 ・他の学年に伝えられてよかった。 				
(8) 安全対策として事前・当日の取組事項				
体験活動時 <ul style="list-style-type: none"> ・事前に道具の扱い方をとどろみの森クラブの方から指導を受ける。 ・作業に際して、とどろみの森クラブのスタッフの方から、事前に作業に関する危険予知をし、作業の方法を教わるなどの指導を受ける。 				
(9) プログラムの今後のめざす方向・展開				
系統だてて活動を組み立てていくと、子どもたちの学びに深まりが出てくると考える。 1年生から里山に触れていることで、子どもたちは親しみをもっている。6年生で管理する側の作業等に触れることで、さらに里山について深く知る機会になり、里山保全への態度を育てられると考える。				
(10) 現状での課題、質問事項など				
その年度の担当学年で取り組むことが違ってくるので、内容や目標が毎年変わっているのが現状。 一方では、活動がやや形式化してきて、活動ありきになっていることもある。 学校の思いを聞いてもらっているので、こちらがねらいをもって活動の連携をお願いしていくことが必須であると考えている。				